

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXVI

平成25年3月

熊取町教育委員会

は し が き

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として43ヵ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成24年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したもので、今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

熊取町教育委員会
教育長 西牧 研壯

例　　言

1. 本書は、平成24年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化振興グループが実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化振興グループ考古学技師前川 淳を担当者として、平成24年4月10日に着手し、平成25年3月31日をもって終了した。
調査では、掘削精査した調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図）、調査区壁面図を作成し記録した。
3. 本書は、平成24年4月10日から平成24年12月29日までの発掘調査及び平成23年度第4四半期に実施した発掘調査を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査補助員の参加を得た。
森田享子、野田由美、関井澄子
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化振興グループ考古学技師前川淳が行った。

目 次

| | |
|----------------------------|----|
| 第1章 はじめに | 1 |
| 第2章 地理的環境と周知の遺跡 | |
| 第1節 地理的環境 | 1 |
| 第2節 歴史的環境 | 1 |
| 第3節 周知の遺跡 | 3 |
| 第3章 調査成果の概要 | |
| 第1節 久保城跡11-1区の調査 | 5 |
| 第2節 口無池遺跡12-1区の調査 | 6 |
| 第3節 野田遺跡12-2区の調査 | 8 |
| 第4節 大谷池遺跡12-2区の調査 | 9 |
| 第5節 中家住宅周辺遺跡12-1区の調査 | 11 |
| 第6節 中家住宅周辺遺跡12-2区の調査 | 13 |
| 第7節 七山東遺跡12-2区の調査 | 13 |
| 第8節 東円寺跡12-1区の調査 | 15 |
| 第4章 まとめ | 17 |

第1章 はじめに

平成24年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は35件（平成24年12月29日現在）である。

本書では平成24年度12月29日までに国庫補助事業として実施した口無池遺跡をはじめとする町内遺跡の調査7件と、平成23年度第4四半期に実施した1件を合せた8件の発掘調査の成果について概要を報告する。

| 遺跡名 | 所在地 | 申請面積 | 調査年月日 |
|---------------|-----------------------|-----------------------|---------------|
| 久保城跡11-1区 | 久保1丁目1624番の一部、1629番の3 | 394.96m ² | 平成24年2月21～22日 |
| 口無池遺跡12-1区 | 紺屋1丁目96-1の一部、96-2の一部 | 309.10m ² | 平成24年4月17日 |
| 野田遺跡12-2区 | 野田2丁目2344-2 | 130.17m ² | 平成24年8月21日 |
| 大谷池遺跡12-2区 | 大久保2丁目229-38 | 202 m ² | 平成24年9月12日 |
| 中家住宅周辺遺跡12-1区 | 五門西1丁目44番、45番 | 268.38 m ² | 平成24年10月9日 |
| 七山東遺跡12-2区 | 七山東895番6の一部 | 449.72 m ² | 平成24年10月11日 |
| 中家住宅周辺遺跡12-2区 | 五門西2丁目30-26 | 133.54 m ² | 平成24年10月22日 |
| 東円寺跡12-1区 | 野田2丁目2328-6 | 82.65m ² | 平成24年11月13日 |

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと、南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.23km²を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積台地が形成されている。町域に水源をもつ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降水量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることができます。

第2節 歴史的環境

遺跡数は平成24年12月現在で43ヶ所を数えている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器やそれに後続する時期の石鏃が検出されている。

明確に弥生時代とする遺跡は発見されていない。JR熊取駅のある大久保では、駅前整備事業に伴って昭和61年から平成2年の間に発掘調査を実施し、畿内第V様式を示す土器等を検出して大久保遺跡群として周知されたが、その土器群は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅してしまって詳細は伝わらない。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第V様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡(現:野田遺跡)87-1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成10年度に久保で飛鳥時代から奈良時代の土器群を伴う遺構群を検出し、平成11年7月熊取町七山(七山東遺跡)で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の上器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。主だったところでは野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保E遺跡、小谷の久保A遺跡などで瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度に幅10m程の溝跡他を発見した小垣内西遺跡は地名に因る集落跡の可能性もある。平成15年度にはその北東200m付近で中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見している。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の遺跡としては、五門の重要な文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要な文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地(中家住宅周辺遺跡)での調査では、3m²程度の1箇所のトレンチ内から5,500枚の土師器皿と、巴文軒丸瓦片が出土している。

第3節 周知の遺跡

周 知 の 遺 跡 一 覧 表

| | 遺跡名 | 種類 | 時代 | 地目 | 立地 | 面積 | 主な成果等 |
|----|----------|-----|-------|----|-----|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 来迎寺遺跡 | 集落跡 | 鎌倉 | 宅地 | 丘陵腹 | 3,100m ² | 15~16世紀の陶磁器・土師器・瓦等検出 |
| 2 | 池ノ谷遺跡 | 散布地 | II 石器 | 水田 | 平地 | 62,300m ² | |
| 3 | 大宮遺跡 | 散布地 | 江戸 | 宅地 | 平地 | 5,000m ² | |
| 4 | 東円寺跡 | 寺院跡 | 平安~江戸 | 宅地 | 平地 | 48,000m ² | 瓦・土器多数出土。寺院の形態は不明 |
| 5 | 城ノ下遺跡 | 城郭跡 | 室町 | 宅地 | 丘陵 | 61,800m ² | |
| 6 | 成合寺遺跡 | 墓地 | 室町 | 畠地 | 丘陵腹 | 69,000m ² | 14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出 |
| 7 | 高藏寺城跡 | 城郭跡 | 室町 | 山林 | 山頂 | 34,800m ² | 土塁・堀切等の遺構を確認する |
| 8 | 雨山城跡 | 城郭跡 | 鎌倉 | 山林 | 山頂 | 45,300m ² | 月見ノ亭・馬場・千疊敷の地名が残る |
| 9 | 五門遺跡 | 散布地 | 古墳~江戸 | 宅地 | 丘陵 | 2,300m ² | 土師器片等が検出される |
| 10 | 五門北古墳 | 古墳 | 古墳 | 宅地 | 丘陵 | 1,900m ² | 現在消滅 |
| 11 | 五門古墳 | 古墳 | 古墳 | 宅地 | 丘陵 | 1,500m ² | 現在消滅 |
| 12 | 大浦中世墓地遺跡 | 墓地 | 室町 | 墓地 | 平地 | 18,400m ² | 享徳四年(1445)銘の五輪塔地輪等出土 |
| 13 | 久保城跡 | 城郭跡 | 鎌倉 | 水田 | 平地 | 68,300m ² | 飛鳥期の溝から須恵器・土師器・他瓦器多い |
| 14 | 山ノ下城跡 | 城郭跡 | 鎌倉 | 倉 | 宅地 | 6,800m ² | |
| 15 | 大谷池遺跡 | 散布地 | 古墳~江戸 | 池 | 平地 | 51,400m ² | |
| 16 | 祭礼御旅所跡 | 祭礼跡 | 室町 | 山林 | 丘陵 | 6,300m ² | 五門・緋屋共同墓地 |
| 17 | 正法寺跡 | 寺院跡 | 鎌倉 | 倉 | 宅地 | 55,000m ² | |
| 18 | 小垣内遺跡 | 寺院跡 | 江戸 | 道路 | 丘陵 | 7,000m ² | 罫沙門堂跡、現在消滅 |
| 19 | 金剛法寺跡 | 寺院跡 | 室町 | 宅地 | 平地 | 5,100m ² | 大森神社・押宮寺 |
| 20 | 鳥羽殿城跡 | 城郭跡 | 室町 | 山林 | 丘陵 | 72,600m ² | |
| 21 | 墓ノ谷遺跡 | 寺院跡 | 室町 | 山林 | 丘陵腹 | 32,000m ² | |
| 22 | 花成寺跡 | 寺院跡 | 室町 | 山林 | 丘陵 | 28,000m ² | |
| 23 | 降井家屋敷跡 | 屋敷跡 | 室町~江戸 | 宅地 | 平地 | 12,000m ² | 屋敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土 |
| 24 | 大久保A遺跡 | 散布地 | 江戸 | 宅地 | 平地 | 8,100m ² | |
| 25 | 下高田遺跡 | 条里跡 | 鎌倉 | 田 | 平地 | 57,000m ² | |
| 26 | 大久保B遺跡 | 集落跡 | 弥生~江戸 | 宅地 | 平地 | 47,800m ² | 弥生末~古墳初期の遺物 |
| 27 | 紺屋遺跡 | 散布地 | 古墳~江戸 | 宅地 | 平地 | 22,400m ² | 奈良~平安期の河川跡検出 |
| 28 | 白地谷遺跡 | 散布地 | 室町~江戸 | 田 | 谷 | 129,600m ² | |
| 29 | 大久保C遺跡 | 散布地 | 室町~江戸 | 宅地 | 平地 | 4,500m ² | |
| 30 | 千石堀城跡 | 城郭跡 | 室町 | 山林 | 丘陵 | 1,000m ² | 天正年間(1573~92)の雜賀衆徒の城跡 |
| 31 | 口無池遺跡 | 散布地 | 平安~江戸 | 宅地 | 平地 | 11,200m ² | 平安末~鎌倉初期の遺構、遺物 |
| 32 | 大久保D遺跡 | 散布地 | 鎌倉~江戸 | 宅地 | 平地 | 9,200m ² | |
| 33 | 大浦遺跡 | 散布地 | 鎌倉~江戸 | 田 | 平地 | 4,900m ² | 13~14世紀の瓦器等検出 |
| 34 | 久保A遺跡 | 散布地 | 鎌倉~江戸 | 宅地 | 平地 | 4,400m ² | 建物跡、8~14世紀の土器 |
| 35 | 大久保E遺跡 | 集落跡 | 弥生~江戸 | 宅地 | 平地 | 2,900m ² | 弥生末~古墳初期の遺物多数 |
| 36 | 久保B遺跡 | 集落跡 | 鎌倉~江戸 | 宅地 | 平地 | 5,000m ² | 13~14世紀の瓦器等検出 |
| 37 | 中家住宅周辺遺跡 | 集落跡 | 室町~江戸 | 宅地 | 平地 | 21,300m ² | 近世の陶磁器多数 |
| 38 | 朝代北遺跡 | 散布地 | 鎌倉~室町 | 宅地 | 平地 | 60,000m ² | 13~14世紀の瓦器等検出 |
| 39 | 七山東遺跡 | 散布地 | 奈良~室町 | 田 | 平地 | 80,000m ² | 古代須恵器・土師器・瓦器等検出 |
| 40 | 小垣内西遺跡 | 集落跡 | 奈良~室町 | 宅地 | 平地 | 3,600m ² | 古代須恵器・瓦器・瓦等検出 |
| 41 | 大久保F遺跡 | 集落跡 | 弥生~室町 | 宅地 | 平地 | 1,436m ² | 石器・平安頃の建物等検出 |
| 42 | 野田遺跡 | 集落跡 | 绳文~江戸 | 宅地 | 平地 | 310,000m ² | 绳文石器・古代~近世の集落 |
| 43 | 小垣内中遺跡 | 集落跡 | 奈良~室町 | 宅地 | 平地 | 3,500m ² | 中世の集落 |

熊取町遺跡分布図



第3章 調査成果の概要

第1節 久保城跡11-1区の調査



久保城跡について

久保城跡は、熊取町の中央部よりやや南東の熊取町久保に所在し、小字に「矢の倉」「的場」などが残されているため、中世の城館跡と考えられている遺跡であるが、これまでの発掘調査では城館関連の遺構は一切確認されていない。平成10年に調査地点から160m程北の町立東学童保育所の建設に伴う発掘調査(久保城跡98-1区)で、飛鳥期～奈良時代中期の土師器及び須恵器を多量に含む3本の溝が検出されている。

久保城跡11-1区の調査

調査地 久保1丁目1624番の一部、1629番の3

調査期間 平成24年2月21日～22日

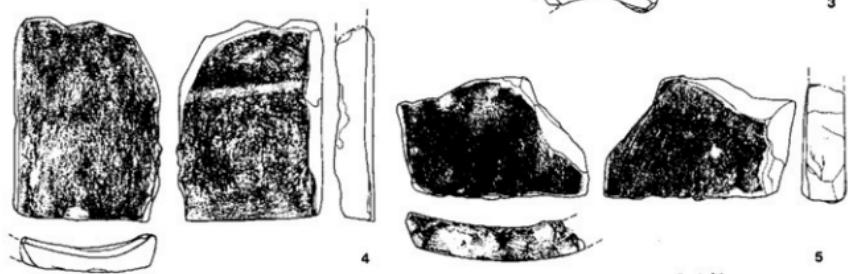
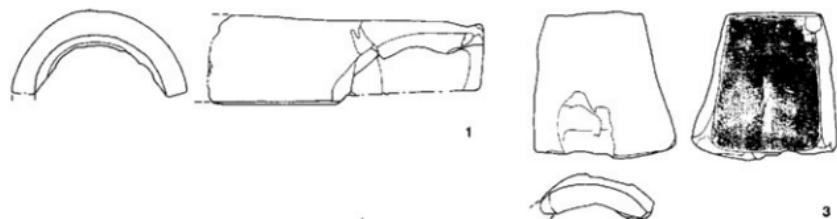
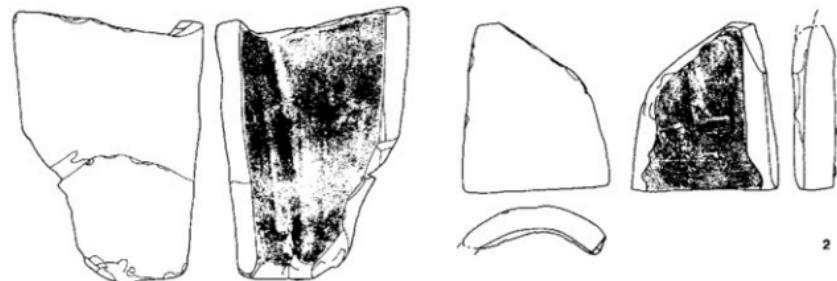
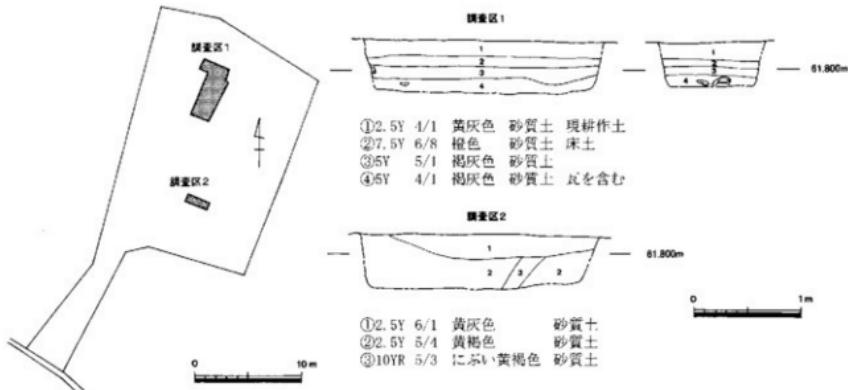
位置と環境

調査地点は遺跡の南端、町道五門久保小谷線に沿ったその北側の畠地に位置する。申請地の隣接地では、これまで中世の層が確認されているが、住居跡などの遺構は確認されていない。

調査の内容と結果

機械掘削による調査を実施した。調査区1で地表面から-0.3m程掘削すると地山面に到達するが、地山直上に多量の中世期の瓦片を検出した。しかしながら、調査区1はこの申請地の最も北に位置し、これより北側に向かって下る地形になっており、その斜面上に転落した遺物であることがわかった。調査区2では何も検出しなかった。

瓦を用いた建築物がこの近辺に存在したのは間違いないが、遺構は後世に削平を受け、ほぼ痕跡を残していないものと考えられる。瓦類は北側の傾斜面に転落したもので、この部分は後世の搅乱を免れたと考えられる。



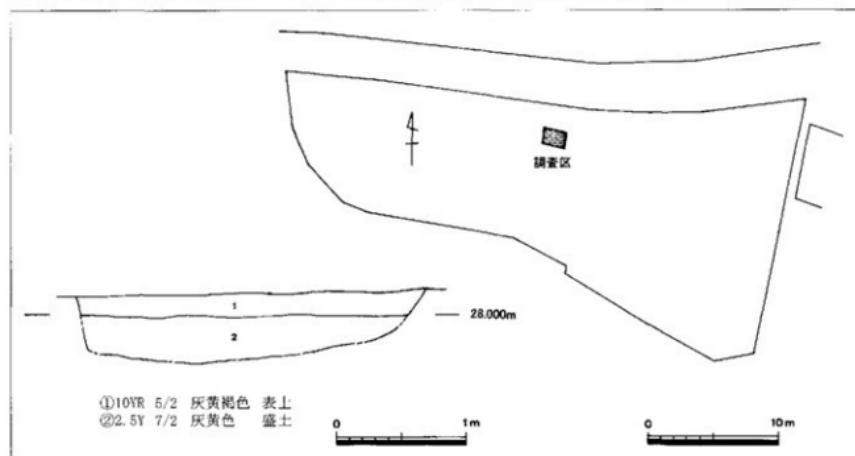
瓦には丸瓦と平瓦があるが、軒瓦は検出できなかった。いずれも中世の瓦で、焼けた痕跡が見られる。また特筆すべきは丸瓦で、検出した個体は上下の端部で幅が異なる行基葺きの瓦だった。

第2節 口無池遺跡12-1区の調査



口無池遺跡について

口無池は16世紀初頭頃に造られた溜め池と考えられており、この池の南側に広がる紺屋の集落の地下には中世の遺物を含む土層が広く分布し、平成8年度には瓦質の羽釜を含む溝跡が検出されるなどしたことから、集落はその頃から形成されたものと考えられる。



口無池遺跡12-1区の調査

調査地 紺屋1丁目96-1の一部、96-2の一部

調査期間 平成24年4月17日

位置と環境

調査地点は遺跡の西端に位置し、この付近は目立った地形の起伏がなく平坦で、農家の比較的大きな古い建物が軒を並べている。

調査の内容と結果

調査は重機で地表面から0.3mほどを掘削したが、いわゆる地山面を検出するには至らず、その間は客土による盛土層のみであった。当地点は現在見るような平坦な場所ではなく、元来は低い地形であり、盛土を行って造成し集落を形成したものと見られる。

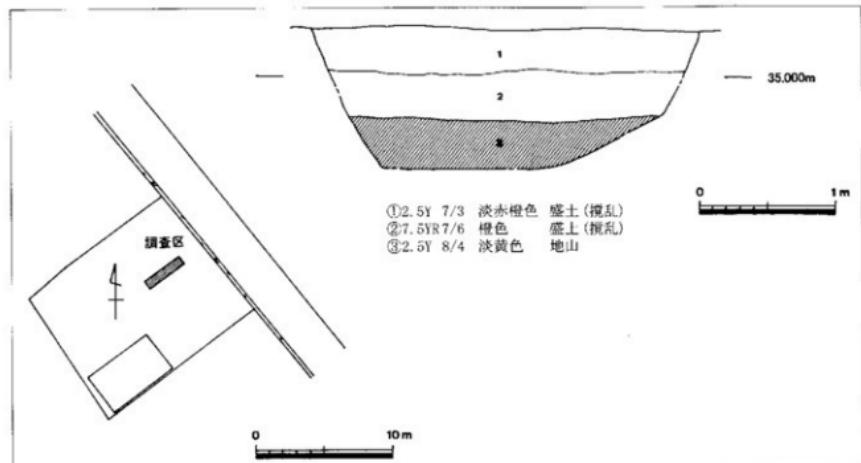
第3節 野田遺跡12-2区の調査



野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約260,000m²にも及ぶ集落遺跡である。そのうち熊取町役場前の45,000m²程の地域については、平安末期以降の寺院の瓦群やその他の埋蔵文化財が非常に多く出土し、寺院を示すものと考えられる小字名が残されている区域であることから、当初から寺院跡の遺跡「東円寺跡」としていたが、この区域よりも外側における発掘調査出土例の増加とともに、「東円寺跡」の範囲は飛躍的に拡大して、野田地域をほぼ囲む程の町内最大の範囲を有する遺跡になってしまっていた。さらに、奈良期以前の埋蔵文化財が確認される例も増え、平安末期に創建されたとされる寺院遺跡の性格を超える様相であることからも、平成15年11月に本来の「東円寺跡」部分と、それより広範な集落遺跡「野田遺跡」に分割したのである。

野田遺跡では、町立中央小学校の調査で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現在の野田の住宅街の調査で、奈良期の掘立柱建物群や須恵器などが検出され、野田



遺跡の集落が営まれた時期は少なくとも奈良時代まで遡ることが推測されている。また調査の成果から、集落は中世初期頃にもっともよく繁栄していたことも推測される。発掘調査の成果からは、集落が室町時代の中期頃より減じて農地化したことでも推測されている。

野田遺跡12-2区の調査

調査地 野田2丁目2344-2

調査期間 平成24年8月21日

位置と環境

調査地点は野田遺跡の中央南寄りに位置し、東西に長く伸びる野田集落の中央やや東寄りにある。周辺は比較的平坦で、野田集落は町道野田紺屋線の南北に展開するような形状である。この町道はかつて存在した熊取で随一の寺院東円寺の門前にあって、参道にもなっていた可能性がある道で、この道路沿いで行われた発掘調査では、中世の遺構や遺物を検出する例がある。また、平成12年度には今回のすぐ西側で個人住宅建築に伴う調査(00-5区)を行い、溝状の遺構から多くの瓦器破片群を検出した。

調査の内容と結果

現地表面から-0.7mで黄褐色粘質土の地山に達するが、地表からそれまでの間は、非常に新しい造成の盛り土が見られる。地山面の表面は比較的平滑であるため、造成を行った際には、元来存在していた上層を機械で削り取ったものと考えられる。00-5区にあったような耕作土もなく、埋蔵文化財は一切検出しなかった。

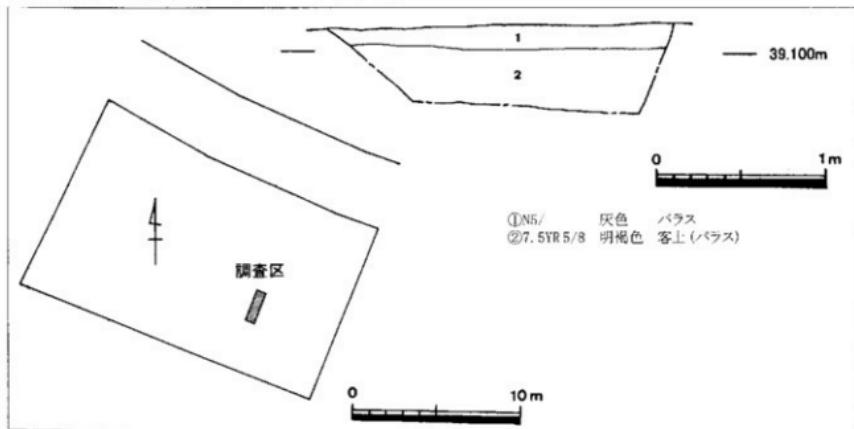
第4節 大谷池遺跡12-2区の調査

大谷池遺跡について

熊取町で最大級の範囲を有する大久保B遺跡が存在する駅前から、大阪外環状線に沿って東の方向へ、かつて比較的規模の大きな寺院があったとされる野田地区へ向かう途中の北側の丘陵上には「大谷池」という面積23,000m²程の池が存在している。大谷池は町内の多くの池と同様、近世には農業用溜池として利用された池で、西側には現在も急峻な堤が



残されている。池の西側以外の周辺は宅地化が進んで、池岸まで住宅が迫っている。池の西側同様に南側の下域に水田が営まれていることから、元来は南側も大きな堤状を呈していたものと考えられる。また、大谷池は現在両端が広がった分銅のような形状をしているが、当初は横方向に長い長方形に近い形状だった可能性がある。北側と南側の住宅地の造成で、池を埋め立てるような拡幅をして池の形状を変えたものと考えられる。大谷池遺跡は1970年代後半から1980年代にかけて実施された分布調査の際に、池岸で須恵器の破片が採取されたといわれるなど、須恵器を生産した窯跡が発見される可能性を含む遺跡である。しかしながら個人住宅の建築に伴って実施した近年の確認調査においては、古墳時代ばかりか中世の埋蔵文化財は一切出土したことがなく、池の築堤に伴うと考えられる層から近世陶磁器片が少量検出された例がわずかにある程度で、その他の調査では宅地造成の大幅な盛土が検出されているのみである。



大谷池遺跡12-2区の調査

調査地 大久保北2丁目229-38

調査期間 平成24年9月12日

位置と環境

調査地点は大谷池の北岸で、住宅地の中に位置している。付近一帯が桜が丘住宅街として造成されて以来、住居が建てられることなく平地のまま現在にいたっている場所と考えられる。申請地の西の住宅では平成7年に確認調査を実施したが、埋蔵文化財は一切検出していない。あるいは平成17年には申請地の東100mで住宅地の開発が行われ、確認調査を実施したが、過去に大幅な盛土が行われていることがわかった。

調査の内容と結果

調査は重機で0.5mほど掘削して行ったが、池岸ということもあり数mの盛土が行われていた。埋蔵文化財は一切検出しなかった。

第5節 中家住宅周辺遺跡12-1区の調査



残された江戸期の絵図面から、現在の重要文化財中家住宅は江戸時代の最盛期の屋敷地に比して半分程の面積に狭まったことが推測され、また屋敷地の周囲には中家に所縁のある人々の集落があったと伝わっており、このことを裏付けるように中家住宅周辺遺跡から出土する埋蔵文化財には近世の陶磁器類と瓦片が最も多く、中家住宅敷地内から出土する遺物と極めて類似性が強い。

現在重要文化財中家住宅の周辺は民家や商店が建ち並んでいる。中氏が熊取を離れた後は、屋敷地内にも郵便局や郷土資料館、倉庫、公園などが設置されたため、調査以前に遺構面が破壊された場所が多く、中家住宅の歴史を発掘の成果から考究するには、比較的遺構面の破壊が軽微な中家住宅の縁辺での発掘成果に期待する部分も少なくない。

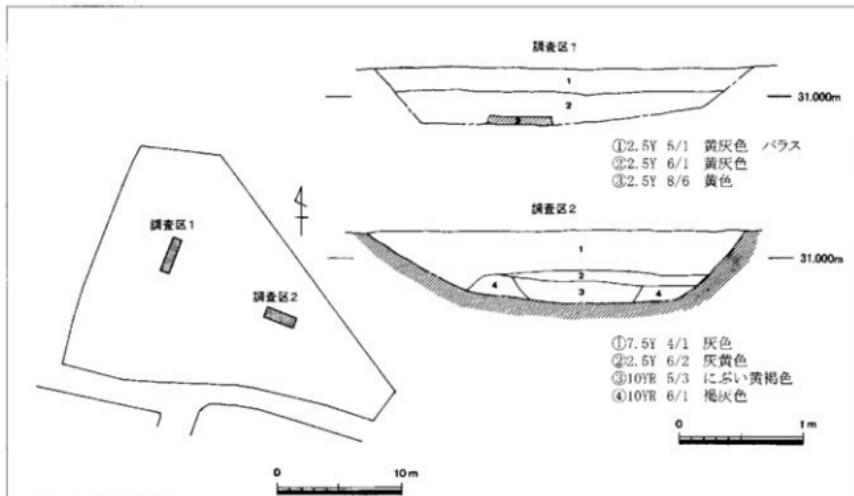
中家住宅周辺遺跡12-1区の調査

調査地 五門西1丁目44番、45番

調査期間 平成24年10月9日

位置と環境

12-1区は重要文化財中家住宅の敷地の東側に隣接する住宅街にあり、現在の中家住宅の主屋とは直線で約70m離れている。当申請地の南20mの地点では、平成5年に発掘調査を行い、井戸や埋甕などの遺構や、16～17世紀を中心とした陶磁器を検出して、中家住宅との深い関連が推測されているので、当申請地付近も中家住宅の極めて周辺のため、遺構や遺物が検出される可能性が非常に高いものと推測された。



調査の内容と結果

予定建物の基礎深度である地表面から-0.4m付近まで機械掘削を実施して調査した。現地表面下-0.3m～-0.4mまで江戸から昭和期に擾乱された層が見られ、0.3m付近に一部地山が残っている。東側の調査区2では地表面下-0.5m付近まで近世の耕作土が存在し、直下に地山がある。瓦などの遺物や、土壌など遺構等埋蔵文化財は一切検出しなかった。

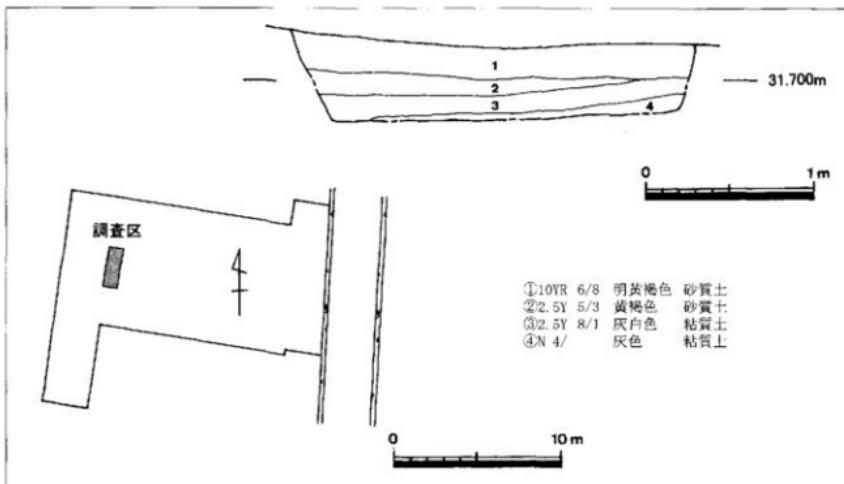
第6節 中家住宅周辺遺跡12-2区の調査

調査地 五門西2丁目30-26

調査期間 平成24年10月22日

位置と環境

12-2区は重要文化財中家住宅とは国道170号を挟んで真南方向約100mの距離に位置し、周囲は保育所や寺院、商店が並ぶ住宅街になっている。重要文化財中家住宅の表門の南側一帯は、かつて一段低く多くの水田が営まれている風景を撮った写真が残されており、現在の街路とは相違がある。



調査の内容と結果

1か所の調査区を設定して、予定建物の基礎深度である地表面から-0.4m付近まで機械掘削を実施して調査した。表層から-0.4m付近まで搅乱および盛土があり、現地表面下-0.4m付近に近世の耕作土が存在していた。埋蔵文化財は一切検出しなかった。

第7節 七山東遺跡12-2区の調査

七山東遺跡について

七山東遺跡は平成11年7月に民間の開発に伴う試掘調査により発見され、99-1区として本発掘調査が行われた。この時第IV期-2段階：平城京III（8世紀第3四半期）からIV期-3段階：平城京IV（8世紀第4四半期）の須恵器と土師器を含む包含層、及び室町時代以降の瓦器を含む包含層が検出されたので、本遺跡は奈良時代と中世の複合遺跡ということができる。

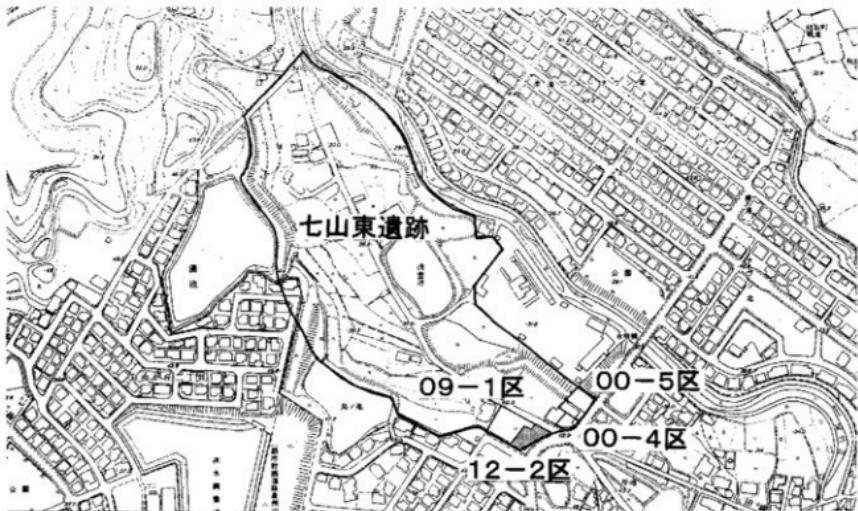
七山東遺跡12-2区の調査

調査地 七山東895番6の一部

調査期間 平成24年10月11日

位置と環境

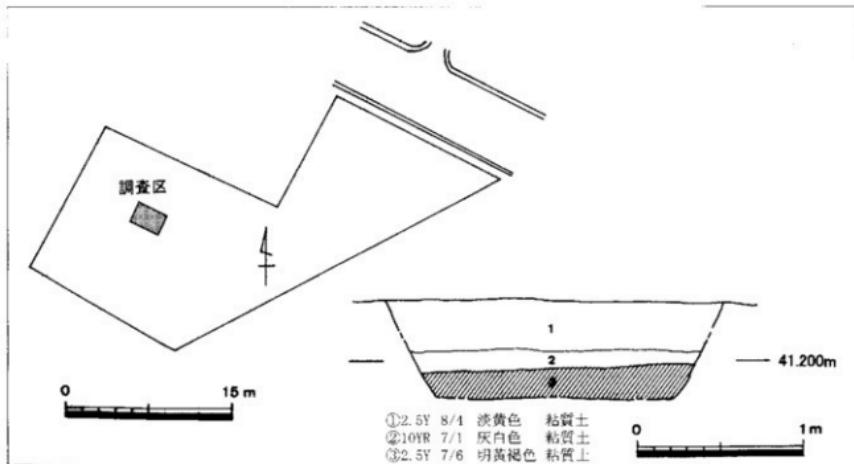
調査地点は見出川の西岸部に形成されている段丘面上にあり、南北に長い遺跡の南東端



部に位置している。今回の調査地点付近では過去に09-1区、00-4区、00-5区で個人住宅の建築に伴う確認調査を実施しているが、今のところ遺構や遺物は検出できていない。

調査の内容と結果

調査は予定建物の基礎深度である地表面から-0.4m付近までを目安として機械掘削を行なって調査を実施した。現地表面から-0.3m以下に古墳時代から奈良時代と思われる層があり、その上に中世の耕作土が載っている状況を確認できたが、埋蔵文化財は一切検出しなかった。



第8節 東円寺跡12-1区の調査



東円寺について

東円寺(東耀寺)は現在地上に何ら痕跡を残していない。16世紀に著述されたとされる『葛城峯中記』に「野田山…」の記述がされる寺院で、平安時代末頃に創建され、中世～近世を通じて存続したものの明治維新の廃仏毀釈で完全に法灯が絶えたものとされている。

また江戸時代に著述された『先代考拠略』によれば、東円寺はかつて「東耀寺(トウヨウジ)」と呼称されていたとされる。中世の東耀寺は豊臣秀吉の來襲で完全に焼亡したとされるが、江戸時代に入って再建され「東円寺(トウエンジ)」と呼称されるようになったという。

現在の遺跡としての東円寺跡の範囲内においては、これまで多くの発掘調査が行われて瓦器椀を中心とする中世の遺物と掘立柱建物跡が検出されているが、肝心の寺院の推定中心地では本調査・確認調査が行われていない。周辺地の調査で出土した複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦のうち残存状態の良いものは熊取町指定文化財に指定されている。

また発掘調査の成果から、熊取町野田にあったこの寺院は創建後數十年経た鎌倉時代に火災で大方の建物群が焼亡した可能性がある。出土する中世土器群の比較観察からすれば、火災が起きたのは13世紀代だったのではないかと思われるが、その火災の原因等については今のところ不明のままである。また創建期の寺院が焼亡した後は、規模を縮小して復興したものと考えられるが、寺域の大部分は農地に作り変えられたらしいことがわかっている。引き続き周辺に集落が営まれたようで、尾上式瓦器椀編年によるIV期の所産が多く検出されている。15世紀以降の遺物は極端に少なくなるが、これは寺院の繁栄や集落の規模などの変遷に比例しているものと思われる。

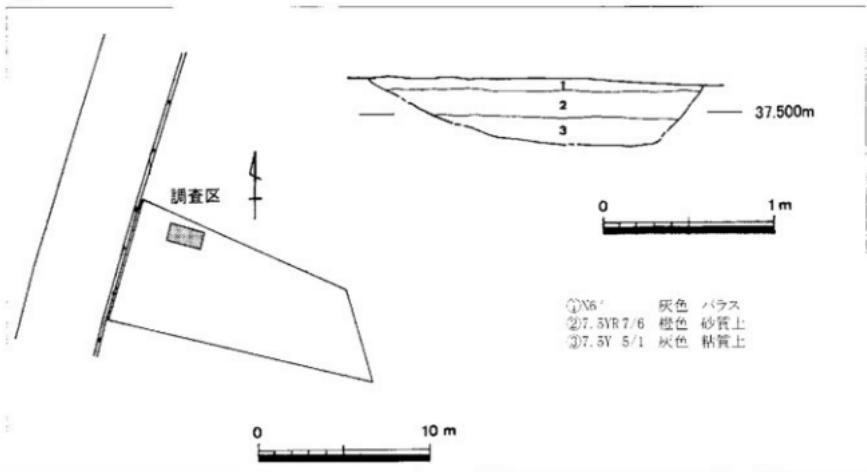
東円寺跡12-1区の調査

調査地 野田2丁目2328-6

調査期間 平成24年11月13日

位置と環境

12-1区は平成21年度に本発掘調査を実施した09-1区の西側に隣接している。09-1区では奈良時代から室町時代にかけての溝や柱穴等の遺構や土器類を検出している。周辺は概ね平坦で店舗や住宅が立ち並んでおり、昔から集落を営める安定した場所だったと考えられる。



調査の内容と結果

調査区を図のように設定して、機械掘削による調査を行った。調査区内では、予定建物の基礎深度である地表面から-0.4m付近まで掘削し、地表面より-0.25m以下に近世以前の耕作土を確認したが、埋蔵文化財は一切検出しなかった。

第4章　まとめ

久保城跡

今回の11-1区の調査では一定の成果を上げることができた。瓦の観察から、調査地点の周辺に行基瓦葺の中世の建築物(おそらく寺堂のような建築物)が存在し、焼失してそのまま再建されることがなかったと考えられる。行基葺きの寺堂は町内には和田に重要文化財来迎寺本堂がある。鎌倉時代の建築物とされており、町南部の雨山(標高312m)の山頂付近に建てられて、南北朝期に後醍醐天皇が礼拝したことや、南朝方の武将橋本正督が篠城したという言い伝えがある。現在まで残されている行基葺きの屋根をもつ寺院としては、奈良の元興寺と、貝塚市の孝恩寺(釘無堂)と、この来迎寺本堂が知られているが、その他は知られていない。ただし各地における発掘調査での検出例はあり、主に古代から中世までの時期の瓦葺き様式として一定の広がりがあったと考えられる。近隣では泉佐野市中庄の壇波羅蜜寺跡の発掘調査で検出されている。

また、小字図などを見てもこの付近に寺院があったことは記されていないが、300mほど西に正永寺、200mほど南西に恵林寺があるなど、規模の決して大きくはない寺院・寺堂が点在しており、かつてはさらに少し多くの寺堂があったと考えられる。

口無池遺跡

現在の口無池遺跡の周辺は紺屋地区の民家が密集して概ね平坦な集落地を形成しているが、中世は現在の地表面よりもかなり低い高さに耕作地が広がっていたことが窺い知れた。

野田遺跡

今回の調査地点は、平成12年に発掘調査を行って瓦器を大量に検出した調査地点00-5区のすぐ東側に位置している。現状地表面から-0.7mで削平された地山があることが確認できる点は平成12年度の00-5区とほぼ同じ状況であるが、今回は遺構や土器、中世期の地層も検出されなかった。この付近は現在比較的古い民家をはじめとした住宅街となっているが、かつては今よりも低い位置に生活面があったことが窺われる。

大谷池遺跡

今回の調査は比較的小規模な調査だったので、以前の調査で確認した大谷池の築堤に関する遺構や遺物検出はなかったが、小規模な調査に留めた地点を数十年後に再び工事を行う際にはその工事の性格に合わせて調査を行う必要がある。

中家住宅周辺遺跡

今年度は重要文化財中家住宅を挟んで南と北で一軒ずつ調査を実施して、北側で行った12-1区の調査地点は、中家住宅の敷地内で実施した発掘調査と符合するような土層が見られるが、南側の12-2区は、元来地形が低かったために、大幅な盛土が行われて現在の住宅街が形成されていることを示す地層が検出された。これはこれまで行ってきた中家住宅周辺遺跡での調査と同じ知見である。中家住宅をめぐるかつての景観については、当初より近年に至るまで、中家の南側一帯は一段低く水田が営まれていたようであり、逆に中家住

宅の北側にある住吉川の左岸には、川と平行するように細く帯状に安定した台地があり、およそ15世紀から集落が営まれ、江戸時代の前後に現在の場所に中家住宅が築かれたと考えられることをさらに裏付けるような調査結果だった。

七山東遺跡

今回の調査地点は、平成11年に須恵器を検出した99-1区の地理的環境と、ほぼ同じ環境下の遺跡最南端に位置しているため、熊取町にとって貴重な古代遺跡の広がりを知る上でも注目されたが、須恵器を始めとする埋蔵文化財は検出されなかった。99-1区では出土須恵器の多さから、付近に古代集落の存在が想定されたが、これまでの数度の調査でも集落につながる遺構が見付かっておらず、この遺跡は、丘陵裾を利用した須恵器の生産窯が営まれた遺跡である可能性の方が高いのかもしれない。

東円寺跡

今回の調査地点は、平成21年に発掘調査を行って柱穴や土器を多く検出した調査地点09-1区のすぐ西側で、同様の集落跡が検出される可能性もあったが、工事掘削の浅い個人住宅の建築ということもあり、埋蔵文化財の検出はなかった。周辺は現在の国道170号（大阪外環状線）のある北方向に向かって緩やかに上り傾斜しており、調査地点は丘陵裾部に位置しているとは思われるが、中世期は現況とは異なり、全体的に今より数十cm低い高さに生活面があったと思われる。東円寺が推定されている付近のかつての状況は、今のような平滑な緩傾斜状ではなく、既に埋没したり削平された起伏があり、その中で最も高い地点に寺院や集落が営まれていたのではないだろうか。東円寺とその周辺の集落については、当時の生活面の高さに注意しながら調査を進めていくことによって、状況が明らかになるものと思われる。

久保城跡 11—1 区

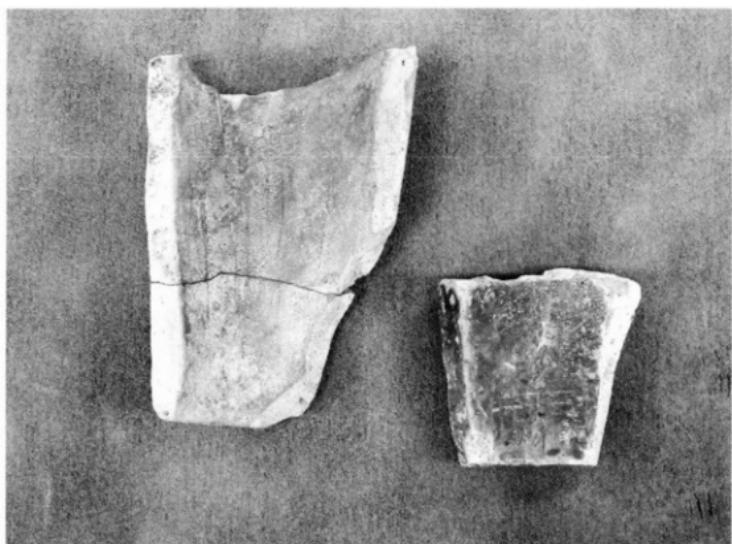


調査区 1 の拡張部分を南方向から見る

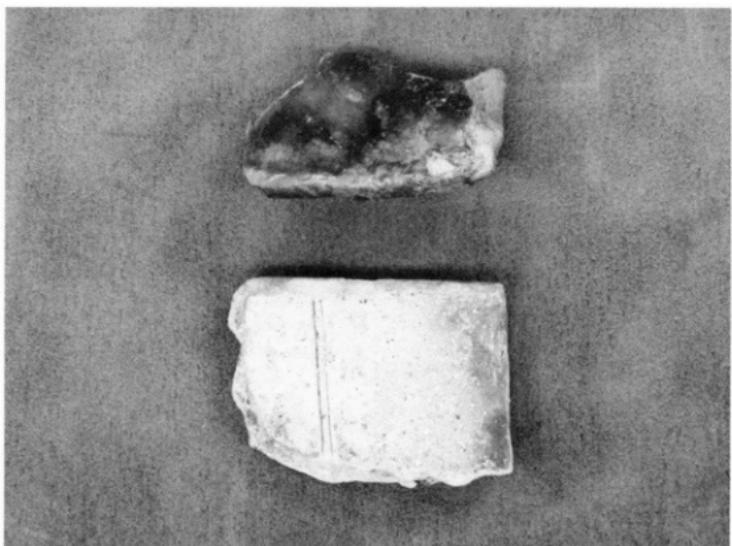


調査区 1 東壁の北端部分の瓦検出状況

久保城跡 11—1 区



出土した丸瓦（行基葺）



出土した平瓦

口無池遺跡 12-1 区

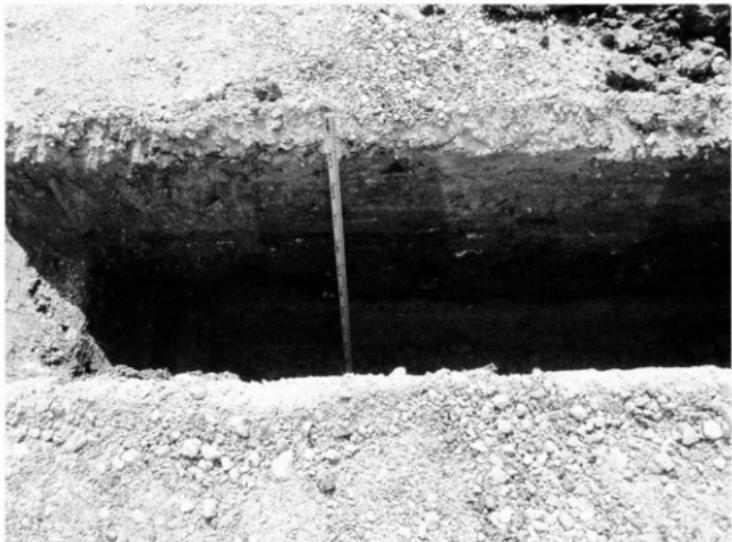


調査区状況



調査区南壁

野田遺跡 12-2 区

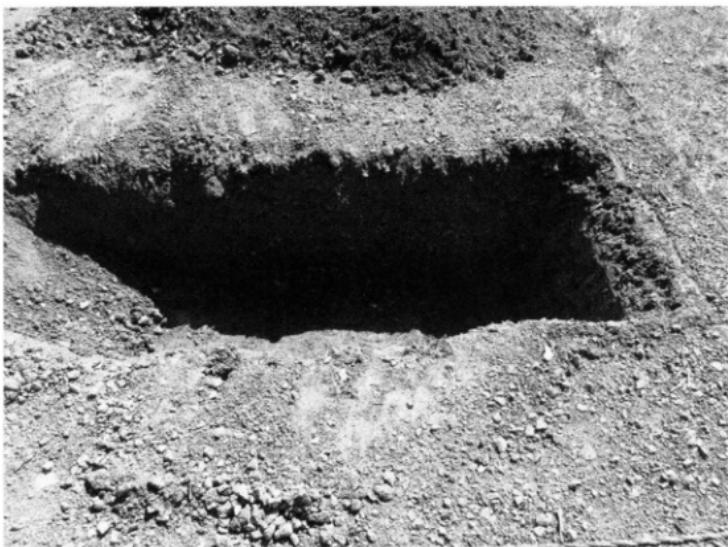


調査区状況



調査区東壁

大谷池遺跡 12-1 区

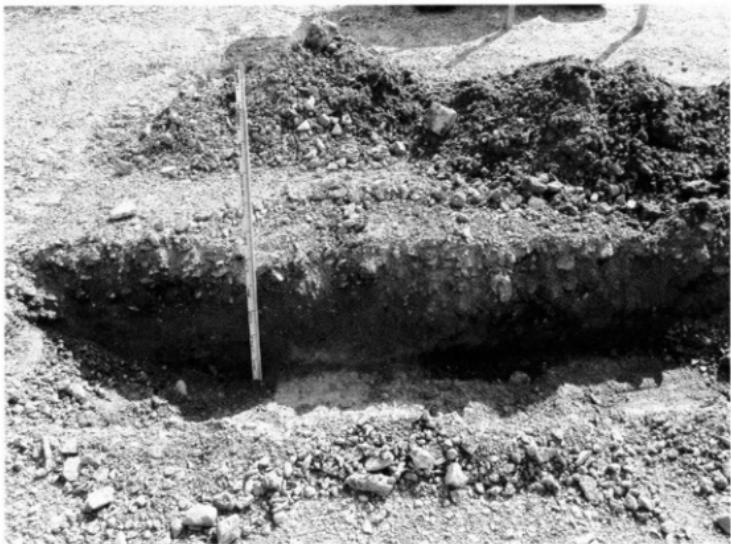


調査区状況



調査区南壁

中家住宅周辺遺跡 12-1 区



調査区 1 状況と東壁

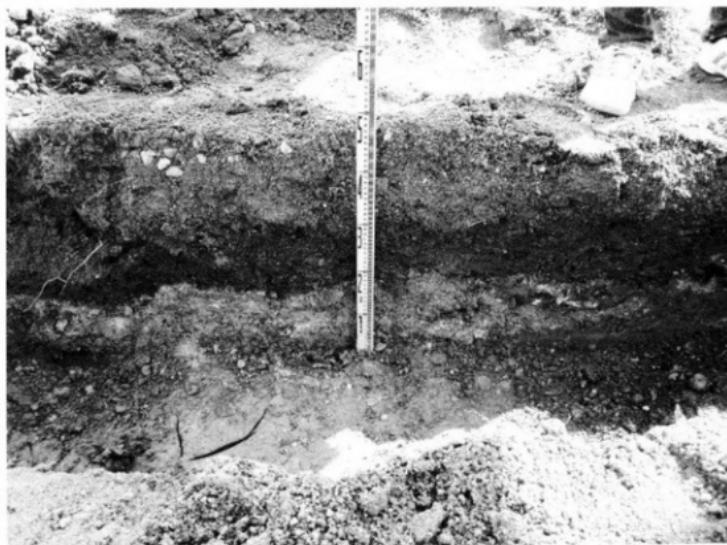


調査区 2 状況と北壁

中家住宅周辺遺跡 12-2 区



調査区状況



調査区東壁

七山東遺跡 12-2 区



調査区状況



調査区壁面

東円寺跡 12—1 区



調査区状況



調査区北壁

報告書抄録

| ふりがな | くまとりちょういせきぐんはつくつちょうさがいようほうこくしょ | | | | | | |
|--------------------------------|---|----------|------|-------------|-------------|--------------------|--------------|
| 書名 | 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書 | | | | | | |
| 卷次 | XXVI | | | | | | |
| シリーズ名 | 熊取町埋蔵文化財調査報告 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第54集 | | | | | | |
| 編著者名 | 前川淳 | | | | | | |
| 編集機関 | 熊取町教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田 丁目1番1号 | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2013年 3月 | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積m ² | 調査原因 |
| 所取遺跡 | 所在地 | 市町村 遺跡番号 | 度数 | 度数 | | | |
| くまとりちょういせき 久保城跡 11-1区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき くぼじやく）久保 | 27361 | 13 | 34° 23' 31" | 135°21' 18" | 20120221 0222 | 個人専用 住宅建設 |
| くまとりちょういせき 口無池遺跡 12-1区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき くちむのいけいせき）口無 | 27361 | 31 | 34° 23' 59" | 135°21' 01" | 20120417 | 個人専用 住宅建設 |
| くまとりちょういせき 野山遺跡 12-2区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき のさんいせき）野山 | 27361 | 42 | 34° 23' 49" | 135°21' 22" | 20120821 | 個人専用 住宅建設 |
| くまとりちょういせき 大谷池遺跡 12-2区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき おおやいけいせき）大谷 | 27361 | 15 | 34° 23' 14" | 135°21' 06" | 20120912 | 個人専用 住宅建設 |
| くまとりちょういせき 原生的河岸遺跡 12-1区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき げんせいてきかせんいせき）原生的河岸 | 27361 | 37 | 34° 23' 07" | 135°23' 50" | 20121009 | 個人専用 住宅建設 |
| くまとりちょういせき 中瀬川河岸遺跡 12-2区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき なかせがわかせんいせき）中瀬川 | 27361 | 37 | 34° 23' 48" | 135°21' 03" | 20121022 | 個人専用 住宅建設 |
| くまとりちょういせき 七山東遺跡 12-2区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき しちさんひがいせき）七山東 | 27361 | 39 | 34° 24' 17" | 135°22' 02" | 20121011 | 個人専用 住宅建設 |
| くまとりちょういせき 東門寺跡 12-1区 | 大阪府泉南郡 （くまとりちょういせき とうもんじいせき）東門寺 | 27361 | 4 | 34° 23' 53" | 135°21' 22" | 20121113 | 個人専用 住宅建設 |
| 所取遺跡 | 種別 | 遺跡の主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 久保城跡11-1区 | 城郭跡 | 鐵倉 | なし | 瓦・瓦器・土師器 | 行基墓 | | |
| 口無池遺跡12-1区 | 散布地 | 平安～江戸 | なし | なし | なし | | |
| 野山遺跡12-2区 | 集落跡 | 绳文～江戸 | なし | なし | なし | | |
| 大谷池遺跡12-2区 | 散布地 | 古墳～江戸 | なし | なし | なし | | |
| 中瀬川河岸遺跡 12-2区 | 集落跡 | 室町～江戸 | なし | なし | なし | | |
| 七山東遺跡12-2区 | 散布地 | 奈良～室町 | なし | なし | なし | | |
| 東門寺跡12-1区 | 寺院跡 | 平安～江戸 | なし | なし | なし | | |

熊取町埋蔵文化財調査報告 第54集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXVI

発行日 平成25年3月

発行・編集 熊取町教育委員会

大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

販売 (有)山村印刷所

大阪府貝塚市近木1483-8